発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町二
電話3033番
編集兼発行人　城攻

機械化交渉 最終段階で難航
交渉団引揚げ、中断状態へ

機械化・合理化山元団交は、九月三日中央委員会でそれまでの交渉経過を報告しその後の方針を検討、翌四日から交渉を再開した。

事前協議、関連固定給者にたいする加給問題などおもな対立点を中心にその他の懸項をふくめ、約一週間にわたつて継続的交渉をかさねた。その間部分的に若干の進展はあつたが、関連固定給者にたいする加給問題など基本事項が対立のまま交渉は難航した。

交渉団は中央委員会で検討した情勢分析を基調にして、つねに諸情勢を判断しながら交渉をすすめたが、十日戦術委員会で種々情勢を分析し最終段階としての態度を検討し、関連固定給者にたいする加給取扱、事前協議問題残業弁当代増額などについて意志統一をおこないコンベアー当番および港務支部操炭手にたいする加給問題、残業弁当代増額などについて代表者会議で最終交渉をおこなつた。

組合としては最終段階としてゆずるべき点はゆずり問題解決のため努力をしめしたが、会社は一向に誠意をみせず、十一日午前零時十分交渉はついにまとまらずのわかれになり、交渉団は交渉を打ち切つて全員引きあげた。

機械化・合理化交渉はこのように難航しているが事態の推移にもとづき対策を検討する。

四日以降の会社回答

九月二日一時中断されるまでの交渉経過と会社回答は、中央委員会で報告し、四日付の伝単でもあきらかにしたが、四日から再開された交渉でだされた会社回答は、つぎの通りである。（前回通りの分は除く）

◇ 事前協議について
中央協定の解釈に誤りはないと思うが、組合の方で中央で廃棄をたゞしたいということであればそう願いたい。

◇ 作業量が増大し労働強化をきたすものについての加給について（関連固定給者についての加給問題）
コンベアー当番取扱いは現在実績遂行率をとり、人員削減二〇％で三分五厘の歩増としたい。
港務支部の操炭手関係の加給はみとめられない。

◇ 配転料について
その部内に固定するものにたいして、酒肴料一・〇〇〇円と新機械導入記念として一・〇〇〇円を支給する。

◇ 雨ぬれ歩増、汚れ歩増、直出歩増の具体的転勤と保安協定の現場運用解釈について。
港務支部一仕業（七浦信号所）二十仕業（旭町連絡所）四山機電には直出歩増を支給する。

◇ 夏季栄養剤支給について。
健康保険の財政がゆるせば会社も協力します。

◇ 社宅の各戸にたいするコンセント取付けについて。
三十四年上期から三十五年上期までに三・〇〇〇戸とりつけ、その後も中断せず機械化の成果を期待して、最低一・〇〇〇戸は取りつけたいと思う。具体的方法は別途話合う。
なお、本所の散宿手当は現行のままでいき、問題があつた場合に考えたい。

◇ 試錐工取扱いについて
本所関係については長期にわたつてやつているので、今後仕繰作業をあわせてやる場合は仕繰取扱いとする。

前進
軍事基地提供反対
―宮村サノさんの悲しみ―

きたる九月二十日には「宮村祥之君追悼ならびに米軍による射殺事件抗議」についての荒尾市民大会が、故人の母校である第一小学校校庭で、荒尾坂田市長を主催者として挙行される。

事件のあらましはつぎのとおりである。

九月七日午後二時ごろ、東京郊外、米軍ジョンソン基地前を通過中の西武鉄道池袋線車輌に一発の弾丸が射ちこまれ、たまたま乗車中の宮村祥之君の背部に命中、死に至らしめたが、犯人はロングブリー三等航空兵であつた。

ロングブリー三等航空兵（19才）は、警備のたいくつまぎれに腰かけたまま、射撃の姿勢で電車に発砲したが、弾丸が入つているのを「失念していた」というのである。

一方、宮村祥之君は武蔵野音楽大学に哲学してかよい、母親のサノさんは失対人夫として働いている文学どおり勤労母子であり、そのうえサノさんは二十七才のとき祥之君をみごもつたまま夫に死別して以来独身をとおして祥之君の成長にすべてをかけてきた不運な母親なのである。

だから、納棺のときサノさんは「一緒に入れてくれ」と泣かれたそうである。

終戦後、このような痛ましい事件をわれわれ日本人は、歯ぎしりして耐えてきたが、西日本駐留軍犠牲者遺族会の調査では、西日本だけで三七一名の死亡者を出しているとのことである。

さて、さい近の国際情勢の影響からみても、米軍の態度は「ジラード事件」当時よりは腰の低い様子がみえる。

しかし、人間性を無視するこのような事件の背景、すなわち、軍事基地提供、米軍駐留自体の撤廃がない限り、日本民族のかなしみは消え去りはしない。

われわれは「完全独立」の闘いを社会党や共産党に一任しすぎてはいないだろうか。

民族の独立と階級闘争の推進は労働者階級にとつて二つの「指標」であり、不可分のたたかいであることをあらためて再認識すべきである。

宮村サノさんの悲しみは、けつしてわれわれと無縁ではない。

雨の正門で

休憩時の職場情景で、機械化団交の中絶をきいた表情もわからぬほど汚れた顔が、並んだまま、しばらく動かなかつた。

「これほど働いても、まだ働きたりないというのか」

人車のなかでも、冗談がとばなかつた。坑外は雨がふつていた。―それが一層怒りをつよめた。だが正門で何の不安もないような出迎えの子の笑顔をみると、とたんに、忘れていた笑いがうかびやつと新たな決意がわいてくるのだ。

「とにかく、やるぞ、おめおめ追い立てられて、たまるかツ」

北三連で特労賃金闘争
11日から強力な実力行使

北海道の友山、美唄、芦別、砂川労組ではいま果敢な闘いにたちあがつている。北三連の特殊労働賃金闘争と美唄労組の福利厚生闘争が闘われているが、美唄の福利厚生闘争は、十二日一番方からの各方一時間五十分時限ストを指令し、実力を背景とした強力な交渉で諒解点にたつしたが、北三連の特殊労働賃金要求はとくにそのなかに含まれている七項目の新要求についての対立がはげしく、十一日砂川、十二日芦別、十三日美唄とリレー二十四時間ストを決行し力強い闘いがすすめられている。

七項目の到達新要求

北三連では特殊労働賃金闘争として、いままで協定をむすんでいた呼出し手当、坑内臨時兼務手当、寒風手当、その他などを増額することと

1、岩粉散布作業手当
2、坑外特殊作業手当
3、自動盤切の取扱い
4、索道危険手当
5、支柱積出炭の取扱い
6、天井裏、床下作業手当
7、高所特別作業手当

の七項目の新要求で闘いをすすめている。

この新要求は「鑛道危険手当」以外はすでに美唄で協定されているもので、これを北三連の統一交渉で協定しようというのが要求の内容である。

この要求にたいして会社は「新しい項目を認めることは駄目である従来協定していたものについての額面などは別途考慮したい」といつている。

北三連では新項目の設置をあくまで主張しているが、結論がでないため、十一日一番方より砂川、十二日芦別、十三日美唄とリレー二十四時間ストにはいつた。

十五日以降の戦術については北三連戦術委員会で検討し強力な闘いをすすめる。

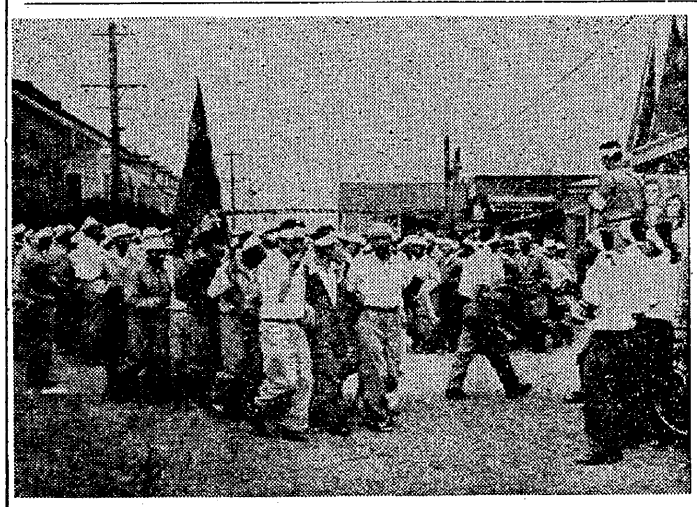
美唄は福利闘争へ

美唄では長期計画協定で約束している福利厚生施設の新設、改善促進などを予定どおり実施せよということと、新要求四十二項目をだして交渉をすすめたが、会社は「長計協定の実施については三十二年度までのテンポを早めることは美唄の会社内部で何とかしてでも組合のいうとおり完成したいが、新要求については本店とも折衝をしたが予算がないので要求にこたえることはできない。どうしても新要求を入れるとすれば美唄の現地における別な予算をきり下げてそれをふり向ける以外にない」と回答した。

別な予算とは保安優先その他にあてる資材などをストップしてふり向けないかぎり、美唄としてはどうにもならないと会社は主張している。

美唄労組は誠意のない会社側の態度を団交でつよく追求したが、事態は進展せず、十二日一番方から一時間五十分の時限ストを指令し実力を背景とした交渉をおこなつた。その結果、十二日午前十時、一応諒解点にたつしストを解除した。

具体的な内容については、いまのところあきらかになつていない。



気勢を挙げる王子製紙組労

王子製紙労協へ闘争集中
辻オルグより現地ルポ

王子製紙の闘いは弾圧と分裂のもとに、連日血みどろななかで、つづけられているが、炭労はオルグ団を編成現地へ急行させた。三池からは辻総務部長ら三名が去る七日出発、現地（名古屋）へとんだ。名古屋へ到着したオルグは直ちに活動をはじめたが、辻総務部長から編集部へ現地の模様をつたえるルポ第一信がつぎのようにもたらされた。

炭労のオルグ二十五名は十八日名古屋につき、その足で検察庁にむかい検束されている四名の同志への激励と、検事にたいする抗議をおこないました。

中央炭労の渡辺組織部長から闘争支援についての説明と、王子製紙労組の執行部から闘争の経過をききました。

それによると、昨年十一月の一時金闘争で、部分スト、時限ストを決行し、七万三百八十円の要求で五万八千円を闘いとつたが、長期闘争を闘つた力がいまの闘争に発展しているようです。

その後、今年の二月に賃金、退職金、結婚祝儀金要求（賃金＝昇給をふくむ二・一六一円、退職金＝支払率の一部改訂と最低補償額の新設、結婚祝儀金＝二〇・〇〇〇円）をだして闘いをつづけていたが、五月二十日会社から労働協約改訂の提示があつた。

六月十日が協約の有効期限が切れる日であり、会社の改訂要旨はユニオンショップの否定、就業時間中の組合活動の大巾な制限、組合への便宜供与の制限や争議行為の制限などであり、組合は現行協定の一年延長を主張しています。

その後会社はさらに、十二日間の連続操業（作業の部合で休日をなくし、連続操業をすれば能率が上り生産が上昇する）を提案してきたのです。

組合は六月十七日の団交に、連続操業を認め、会社に労協の一年延長を認めさせる方針でのぞんだが会社は一向に誠意をみせず、ついに六月十八日から無協約状態に入つたのです。

その後、二十四時間ストを反復して闘いをすすめてきたが、解決の糸口は見出せず、七月十八日から王子製紙労組は無期限ストに突入したわけです。

いまは闘争の目標は労協に集約されて闘つています。

王子製紙労組の組織は東京に本部があり、北海道に苫小牧支部（三・二〇〇名）本店支部（二八〇名）名古屋に春日井支部（一・〇七〇名）となつており、交渉は中央本部でおこなわれています。

私達がオルグに来ている春日井支部の第二組合は、八日現在で二四七名で全組合員の約二十五％にあたります。いまのところ多数が第二組合に脱落していくことは考えられません。

オルグも八日から二交替制で、昼の部、夜の部にわかれて昼間のピケ要員の仲間達と学習活動をし、はげましあつています。

女子組合員が三〇％ほどいますが大変元気者ばかりで、ピケのとき前線にだされないことでコボしています。

社宅居住者が三〇％、通勤者が七〇％ですが、毎日朝七時と夜の七時には全員集合して闘いへの確信を響いあつています。

最後の勝利まで強い団結で闘いぬくとみんな張り切つています。

私たちは一班で三作支部の堀川教宣部長、本所支部の松崎厚生部員職組の伊藤副組合長らと一緒でみんな元気で頑張つています。

すべての労働者が団結をかため資本家の攻撃をはね返さねばなりませんが、三池としても王子製紙闘いを理解して支援をおくる必要があると思います。

機械化の山元団交はどうなつているでしょうか、どこにも資本家のはげしい攻撃があらわれているでしょう。

荒尾で市民大会
米兵の宮村君射殺事件で

去る九月七日西武鉄道池袋線飯能行き電車にのつていた武蔵野音楽大生宮村祥之君（22・荒尾市宮内出目）が、米空軍ジョンソン基地の米兵（臨時雇兵）ピーター・E・ロングブリー三等兵（19）にカービン銃で射殺された。

この報が国民の間につたわるや前のジラード事件以上に国民の間に憤激をまきおこしている。

この事件は日本人の生命を虫けら同様に扱う米兵の日本人べつ視感のあらわれとして、みのがすことはできない問題である。

荒尾には祥之君の成長を楽しみに失対人夫をしながら学費を稼いでいた母親サノさん（50）がいるがこの報に接しがく然として悲しみにうちのめされた。サノさんは八日に上京、悲しい対面をした。

この事件の原因は何といつても米軍の日本駐留という点にあり、こんど、この種の事件をおこさせないためにも、すみやかな米軍撤退がとくに痛感される。と同時に日米行政協定、日米安全保障条約を廃棄し、すべての犯罪は、日本の裁判所でおこない、日本の法のもとに裁かなければならない。

なお、宮村さんの遺骨はサノさんの手によつて十三日帰荒するが、地元荒尾市では荒地評、市当局、市議会、日中友好協会、遺族会、青年団、婦人会、主婦会、自労、遺族代表、革商連、商工会議所、自民、社会、共産各党の主催で〝宮村祥之君追悼、米兵射殺事件抗議荒尾市民大会〟を九月二十日午前十時から第一小学校庭でひらくことになつた。

大会後は、宮村さんの自宅にむけて弔慰行進をおこなうことになつている。